

二〇一八年三月二三日

小流れに切つ先立てし菖蒲の芽
屹立し芽吹く裏山大伽藍
コサージュの胸ふくらませ卒業す
山門をくぐる我らに芽木の風
島繋ぐ送電線や鳥帰る
国境なる嶺をさして鳥帰る
ゆくりなく初花にあふ朝散歩

二〇一八年三月二二日

芽柳に風の生まるる川堤
くつくつと新玉ねぎを煮込む音
貝寄風や潮目が分かつ青と藍
玄海の潮に育ちし若布刈る

二〇一八年三月二二日

梅林の小径数珠なす傘のれつ
眼福と見し満開の丘の梅
遙かなる銀嶺日矢に煌めける
春疾風悲鳴をあぐる森の木々
陽光の丘埋めたる花ミモザ

二〇一八年三月二〇日

梅の丘指呼にまどかな甲山
鼻先と梅の花との出会ひかな
母さんとおててつないで卒園す
畑仕事終へて家路へ春の夕

ともえ

せいじ

更紗

せいじ

宏虎

菜々

はく子

ぼんこ

みどり

やよい

さつき

こすもす

せいじ

隆松

明日香

みどり

たか子

こすもす

もとこ

みどり

目覚ましをかけずともよき朝寝かな

身まかりし妹悼む桜かな

舞殿へ伸びし一枝の初桜

二〇一八年三月一九日

野に遊ぶ師弟関係が一番

つばめ来て古巣繕ふ無人駅

老木の幹黒々と花の雨

ゆくりなくお茶の接待遍路寺

うららかや検診票の良多し

春日燦砂紋に濃ゆき松の影

礎半ば一息つけば山笑ふ

二〇一八年三月一八日

産土の杜の息吹や百千鳥

ホスピスへ辿る桜の並木道

春光や天守より見ゆ古戦場

二〇一八年三月一七日

子らのどか砂場に数多土だんご

土手草に見えつ隠れつ初蝶来

ジョギングすペアールックに風光る

さつき

あさこ

やよい

明日香

智恵子

三刀

なつき

愛正

ぼんこ

ぼんこ

菜々

よし女

なつき

たか子

菜々

満天

毎日句会みのる選・二〇一八年三月二五日